

浜松市中区でハニー美容室を経営されている長谷勇さん(77)をお訪ねしました。長谷さんは、「ボランティアが自分達の人生の生きがい！」と仰る方で、ご夫婦で長年の間さまざまな奉仕活動に従事してこられたそうです。



[長谷勇さん・恵美子さん夫妻](#)



[浜松市中区 ハニー美容室](#)

そもそも、長谷さんのボランティア活動の始まりは二十歳の時。当時は浜松で理容師をされていたが、美容師に転職をするために一念発起して上京。昼はアルバイトをしながら夜は美容学校に通って技術の習得に努めていたのですが、そんな折に、介護施設に入所しているお年寄り達が整髪に行けず困っているということを知り、仲間達と協力をして毎月施設を訪れ、無償で整髪奉仕をするようになったとのこと。

「困っている人達のお役に立てるならとの気持ちもありましたが、自分の美容師としての技術を高めるために、少しでも場数を踏みたいという思いもありましたね。」

ボランティアのペースは月に1回ぐらい。病院に行ったり障害者施設に行ったりして、たくさんの方の髪を切りました。寝たきりの病人をベッドに寝たまま散髪をすることもあったそうです。毎月欠かさことなく続けていたため大変な時もあったと思いますが、

「もう言葉もしゃべれなくなった100歳ぐらいの方が、施術後に私の手を握って離さないんですよ。やっぱり喜んでくれているんだと…」

そういうことが嬉しくて、活動を続けることができたと言います。



[整髪奉仕1](#)



[整髪奉仕2](#)

昭和49年に恵美子さんと結婚、それからは奥さんと二人三脚のボランティア活動が始まりました。奥さんの実家もボランタリーな精神に溢れた家で、お父さんやお祖父さんが地域に奉仕している姿をいつも見ながら育ったそうで、そのような影響からか長谷さんの活動に違和感を感じることもなく、自然と一緒に活動をするようになったそうです。

浜松に戻り、葵町で開いた美容室（ハニー美容室）のお客様で、福祉施設の関係者の方がいて「何かやれることがあったら…」と話していたら、そこから自然と縁がつながりたくさんの施設から声がかかったとのこと。人を使って店をやるようになってからは、スタッフの技能育成のカリキュラムの中に福祉ボランティアを組み込んで、教育の一環としても整髪奉仕をやっていたそうです。

恵美子さん「一ヶ月に一度行かせてもらって、そこの人達が楽しみに待っててくれるんですよね。その人達の笑顔を見るために行くという感じでしたね」

最近では、福祉美容師というシステムが社会に定着してきたため、整髪奉仕のボランティアは5年ほど前に終了しましたが、長谷さんご夫婦のボランティア生活が終わったわけではありません。

現在は、日本善行会浜松支部の専務理事として、長年に亘り善行活動を続けられた方の表彰の推薦を行ったり、会員さんと一緒に毎年春と秋には佐鳴湖の清掃活動をしたり、災害の起きた地域に手作りの雑巾を送ったりといった活動をされているそうです。

また、奥浜名湖ライオンズクラブのメンバーとして、地元の小・中学生を文武両面に支援をし、優秀な行動に対してライオンズ賞を授与したり、浜名湖の源流である観音山の草刈りを引佐北部中学の生徒さんと共に行ったりと、長谷さんご夫妻の活動は非常に多岐に亘っています。

平成24年には、そのような長年の功績が評価されて、日本善行会の長寿善行者として東宮御所に招かれ、皇太子殿下への接見を賜るといふ栄誉をいただき、また平成27年には静岡新聞社が主催する「ふるさと貢献賞」をご夫婦として受賞。しかし、長谷さんにはそういう栄誉を誇るようなところはなく、「私ごときが…」とむしろ困惑されているようなご様子で、そのような謙虚なお姿が非常に印象的でした。



[皇太子殿下への接見1](#)



[皇太子殿下への接見](#)

ボランティアを生きがいとした長谷さんご夫婦の半生。「どうしてそんなに人の世話ばかり焼くのか。もっと自分のことを考えた方がいい」などと言われることも多かったそうです。

しかし、長谷さん「我々は無理に儲けようとしなくても、皆さんに分け与えるという気持ちを大事にしたい。喜んでくれる。待っててくれる。それがうれしいんです。」

恵美子さん「美味しいものがあれば、みんなで分かち合って食べると親から教わってきました。その教えを守っているだけですよ。」と、お二人のボランティア生活はまだまだ終わりそうにないようです。最後にシニア世代の方に向けてのメッセージをお願いしました。

長谷さん「生涯現役でいるという気持ちが一番大切ではないでしょうか。そうすれば健康でいれるし、楽しく生き生きと暮らすことができますと思います。仕事でもボランティアでも動けるうちは頑張る。目標を持っていれば、動き出してしまえば案外動けるものですよ。」とのこと。

伺っていて、お二人が元気でボランティアに励める秘訣を垣間見たような気がしました。きっとこれからもさまざまな形で地域に対しての奉仕を続けられることと思います。長谷さんご夫婦のますますのご活躍をお祈りいたします。

浜松南部地区 いきがい特派員 丸山敬